

“全校生徒で広げる、深める！” 久住中学校 集団読書

集団読書のねらいとながれ

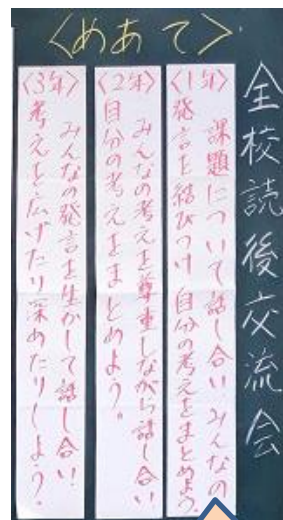
ねらい

- 同じ物語を全校生徒で読み、課題を設定することで、積極的に、粘り強く読む姿勢を身につけ、自ら課題を見いだす力を育てる。
- 同じ課題について同学年や他学年の生徒と話し合うことにより、文章を読みとる力を育てるとともに、読みや自分の考えを広げたり深めたりし、それを表現する力を育てる。

ながれ

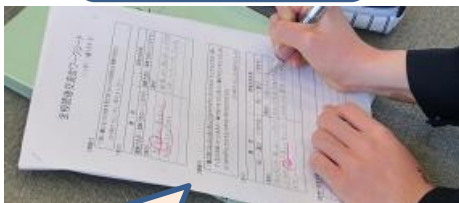
- 一、課題図書を読み、感想・課題を書く。【朝読書】
- 二、文化部で、クラスごとの課題を設定する。【専門部会】
- 三、もう一度読み、課題について自分の考えを書く。【朝読書】
- 四、クラスで読後交流会を行い、課題について話し合う。【国語の授業】
- 五、文化部で全校で話し合う課題を二つ選ぶ。【専門部会】
- 六、もう一度読み、自分の考えをまとめる。【朝読書】
- 七、全校読後交流会をおこなう。【国語の授業】

課題図書は芥川龍之介「鼻」



課題① 「短い鼻になった内供の鼻を見て笑った人々の気持ちが理解できるか」

めあては学年ごとに設定されています。



交流会の前と後で自分の考えがどのように変わったかを記録します。一人でじっくり考えます。

「人を疑ってしまう自分から解放されたから。」「鼻がもとにもどって、自尊心に苦しんでいる自分から解放されたから。」など深いところまで考えた意見が交流されました。
全校生徒が同じ時に同じ作品を読み、考えを伝え合うことの素晴らしさの伝わってくる集会でした。

班で話し合った考えを全体で交流します。



縦割り班でそれぞれの考えを交流します。

生徒会文化部の生徒が進行します。

課題② 「『鼻が短くなったとき』と『鼻がもとにもどったとき』のはればれとした心もち」は本当に同じだろうか



難しい課題ですが、縦割り班なので下級生が上級生の考えに触れ、より深く考えることができます。

